
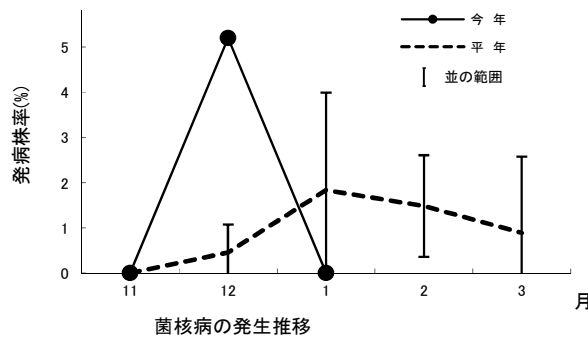


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より低い見通しから、1月より発生量は増加すると考えられる。		

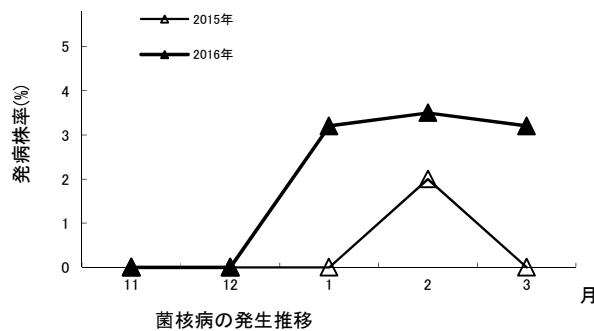
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は0%（前年3.2%、平年1.8%）と平年並であった。
- ・ 1月中旬の病害虫防除員からの報告によると、増加傾向であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

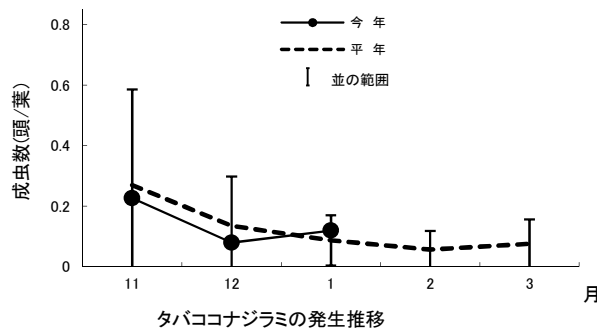
- ・ 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 多湿条件下で発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風をよくする。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

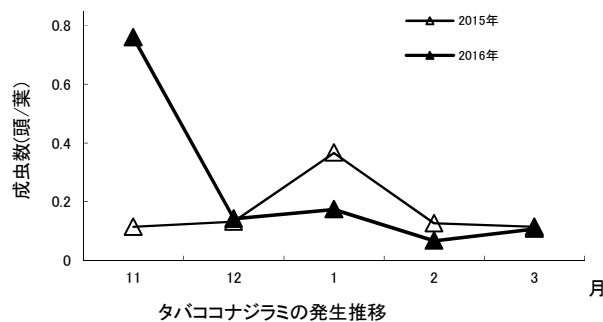
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.2頭、平年0.1頭)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

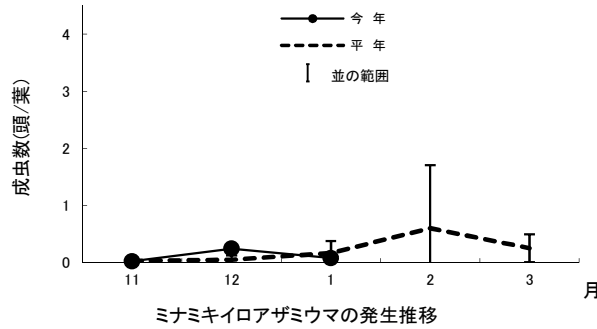
- ・ ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・ 本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、ほ場内への侵入を防止する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。  
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

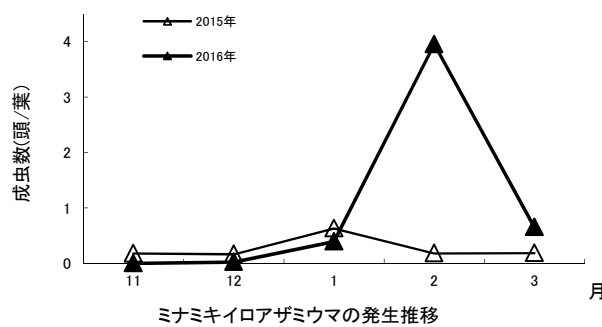
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.1頭未満、平年0.2頭)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

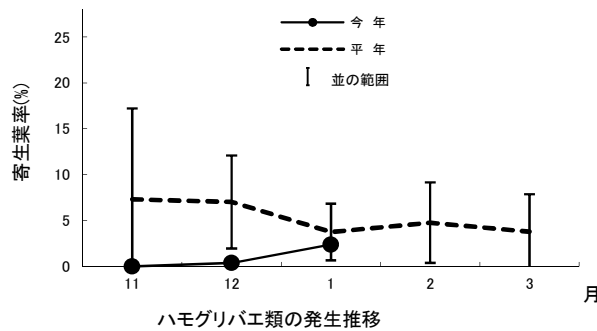
- ・ ほ場の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

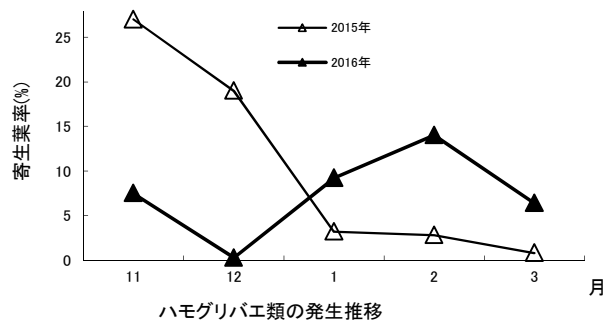
発生量の根拠(調査結果)

- 1月下旬の調査の結果、寄生葉率は2.4%(前年9.2%、平年3.7%)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

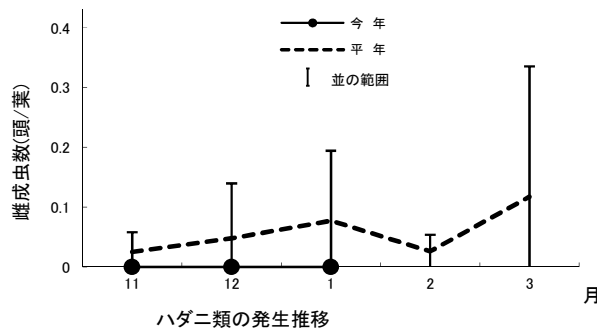
- 摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- 本種は薬剤抵抗性が発達し、また野外に多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。		

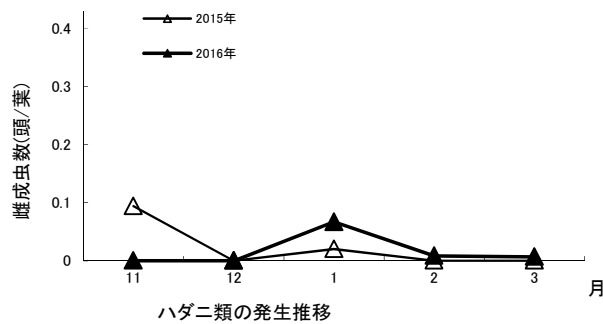
発生量の根拠(調査結果)

- 1月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0頭(前年0.1頭、平年0.1頭)と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。